公共交通マーケティング研究会

スタートアップセミナー

ショートスピーチ

～ 公共交通マーケティングへの期待 ～

平成30年12月10日（月）

公共交通マーケティング研究会
アドバイザー　野村 文吾
十勝バス株式会会社 代表取締役社長

皆さん、ご存じだとは思いますが

路線バス沿線住民宅に戸別訪問

どうして、
バスに乗って
頂けないの
ですか？

市内循環バス

利用増へ沿線住民訪問

十勝バス役職員 チラシ渡し割引など説明

十勝バス（帯広市、野村文吾社長）は17日午後、市内循環バスの利用者を増やそうと、同社役職員が路線沿線の居住者に直接訪問を始めた。循環バスは2009年9月に運行を開始したが、1便当たりの利用者は1～2人程度と低迷しており、地域住民の声を直接聞くことで利便性を上げるヒントを探っている。

バス路線の説明に歩く野村社長（左）

「肌でニーズ知ること大事」

循環バスは帯広市地域公共交通活性化協議会が行う運行実証試験として始まった。「国立病院帯広病院」と「イトーヨーカドー帯広店」を結ぶ南北路線、西帯広地区の東西を8の字に回る西地区縦路線の2系統。南北路線は拓殖バスと十勝バス、西地区縦路線は十勝バスが運行する。

1便当たりの平均利用人数は特に西地区縦路線は1・2人と少なく、十勝バスでは初の試みとして役職員約30人が28日まで1人10戸を目安に同路線沿線の住人に〝営業〟することにした。

野村社長は17日午後から柏林台公園付近の住宅を10戸回った。バスの行き先や、既存路線バスに乗り継ぐ時に100円安くなる割引制度についてチラシを持って住民に直接説明。「乗車時間や行き先を知らなかった」などの反応があった。野村社長は「肌でニーズを知ることが大事。買い物など目的別に移動手段として路線バスを提案して利用者を増やしたい」と話していた。（関坂典生）

2011年、今から8年前に
『戸別訪問』で
ご利用頂けるお客さまを増やす
ことで成果を出した

十勝バスの野村文吾でございます

ちなみに・・・

たけしの『アンビリバボー』

でも、ご存じだと思います(笑)

この度、大変僭越ではありますが、

加藤博和 先生 にご指名を頂きまして

アドバイザー

の お役割 を拝命いたしました

実は、

十勝バスが取り組んだことは
とてもシンプルで、

戸別訪問でお聞きした
お客さまのおっしゃられた通りに、
『不安解消』と『目的提案』を

バスの『乗り方』の説明
『目的地』の提案

『 商品化 』による目的地提案
「日帰り路線バスパック」

路線上の施設＋路線バス
お互いの強みを
組合せた企画商品

観光交通と生活交通の
一体化により
生活交通を支える

利用者数の推移
2010年度：2,100名
2012年度：3,200名
2014年度：4,600名
2015年度：5,000名
2016年度：5,400名
2017年度：6,500名

戸別訪問でお聞きした
お客さまのおっしゃられた通りに、
『不安解消』と『目的提案』を
ありとあるゆる方法で実践しました

ちなみに・・・

さて、

公共交通マーケティングへの期待

何故だか「公共交通」には
『マーケティング』が少なかった

商売の世界では
『マーケティング』という言葉が
飛び交っている

「公共交通」では「理工学」的見地からの
『マーケ』が多かった様に感じます

私は商学部卒でお客さま商売の社長です

今の時代は「理工学×商学」的見知の
『マーケティング』が必要と考える

そして、

誤解・先入観・
固定概念・潜在意識
＝『悪い習慣』がある

『意識』を変えることができれば
『習慣』が変わる＝『良い習慣』

バス利用のお客さまを「増やす」してから「減らさない」

目的地検索型 経路検索
乗換案内アプリ

＋

バスロケーション
アプリ

●路線の維持のためにお客さまを増やすには、
目的地検索型 経路検索乗換案内アプリの導入は必要不可欠！

二次交通充足地域の創造

十勝圏二次交通活性化推進協議会の野村会長（右）と北村副会長（左）

バスとタクシーが協議会

6月にも連携商品

会長に野村氏「流入人口増を」

十勝のバス会社とタクシー会社による「十勝圏二次交通活性化推進協議会」が28日、発足した。帯広市内の十勝バス本社で設立総会が開かれ、会長に十勝地区バス協会の野村文吾会長（十勝バス社長）を選任。バス、タクシーと十勝の観光素材を組み合わせた商品を開発し、6月ごろから販売していくことで一致した。

会員は管内バス会社7社、タクシー会社9社。航空や鉄道など十勝への1次交通の利便性が高まっているのに合わせ、中心地から目的地への2次交通の利便性向上を図る。設立総会には行政、経済、観光団体を

十勝圏二次交通活性化推進協議会 設立総会
2013年3月28日開催

毎日新聞 (昭和27年8月1日第3種郵便物認可) ©十勝毎日新聞社2013 大正8年創刊 (日刊)

十勝毎日新聞

2013年(平成25年) 7月30日 火曜日

発行所：十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

観光67コース設定

十勝 バス・タクシー連携

十勝のバス会社とタクシー会社でつくる「十勝圏二次交通活性化推進協議会」は30日午前、飛行機や鉄道などを使った十勝への訪問者が、目的地までの移動手段にバスとタクシーで乗り継げる67コースを発表した。帯広の中心地や宿泊地などと観光地を結び付ける公共交通が充実し、広大な十勝に点在する拠点間の移動がしやすくなる。バス会社とタクシー会社が連携した施行プランを設けるのは全国でも珍しいという。31日から販売を始める。

コースの中には観光施設入場料などが含まれているコースもある。いずれのプランもコースを利用しない場合よりも30～49%安い。バスとタクシーで乗り継ぐ観光プランは、芽室町内の「嵐山スカイパーク」、清水町内の「十勝千年の森」、帯広市内の「真鍋庭園・紫竹ガーデン」の3コース。

「十勝千年の森」の場合でみると、JR帯広駅バスターミナルを出発点にJR芽室駅前まではバス（十勝バス）で移動。芽室から千年の森まではタクシー（こばとハイヤー）で移動する。タクシーは1台7800円。バス料金を含めると1人で往復する場合の交通費は8400円となる。帯広市街地から千年の森までタ

森まで往復できることになる。

移動手段がバスのみのツアーパックは、十勝バスが路線バスを使ったこれまでの「日帰り路線バスパック」などの他、拓殖バスや毎日交通による新コースの紫竹ガーデン、然別湖畔など計31コースある。タクシーのみは33コースあり、昭和タクシー（清水町）は富良野市内と結び、途中で富良野市内の「麓郷の森」を経由するプランも打ち出した。

インターネットでも31日から情報発信する他、パンフレットを作製し、8月上

あすの帯広 最高気温 22℃ 最低気温 19℃
6～12時 12～18時

歯周病専門医による
歯周病相談
医療法人 わだ歯科 34-2001
日本歯周病学会認定 歯周病専門医 院長 歯学博士 和田 大海

十勝毎日新聞 2013年7月30日掲載

乗換案内アプリ『もくいくバスロケ』で
北海道全域が繋がり、オープンデータ化

北海道全域が繋がる！
北海道の路線が見える化！

お客さまにとって、選択肢が多い方が、
使い勝手が良いアプリを選べる！

もくいく　ジョルダン乗換案内　Yahoo!乗換案内　NAVITIME　駅探　駅すぱあと　バスナビ

したがって

『マーケティング』とは
お客さまと事業者の
『誤解』という溝を埋めて、
正しい『意識』を持つ
重要な『道具』だと考えます

しかしながら

顧客視点・マーケットインと
言われますが
専門用語は難し過ぎます

誰もが『分かる言葉』で誤解を解く
＝真の『マーケティング』

きっと

今から数年後、『公共交通』に関する
事業者と全国の市民の『意識』が
大きく変わった時に、あの時が
『潮目』が変わった時なんだ、と
思える時が来ると確信しています

加藤博和 先生と
このマーケティング研究会が
今後、素晴らしい活動を重ねて、
成果を上げる会に発展する、ことを
ご祈念申しあげます

公共交通マーケティング研究会

スタートアップセミナー

ショートスピーチ

～ 公共交通マーケティングへの期待 ～

簡単ではありますが、ショートスピーチに代えさせて頂きます

公共交通マーケティング研究会　アドバイザー　野村 文吾
十勝バス株式会社　代表取締役社長

1. 目的および目的地検索型乗換案内アプリの意義

1. 目的地検索型アプリの意義

(1) バスの『乗り方』の説明
『目的地』の提案

1. 目的地検索型アプリの意義

(2) 商品化：日帰り路線バスパック

路線上の施設＋路線バス
お互いの強みを
組合せた企画商品

観光交通と生活交通の
一体化により
生活交通を支える

利用者数の推移
2010年度：2,100名
2012年度：3,200名
2014年度：4,600名
2015年度：5,000名
2016年度：5,400名
2017年度：6,500名

1. 目的地検索型アプリの意義
(3) 目的地検索型・経路検索型
乗換案内アプリ『もくいく』の活用が必須！

時刻表・路線図
運賃等データ提供・確認

十勝バス TOKACHI BUS

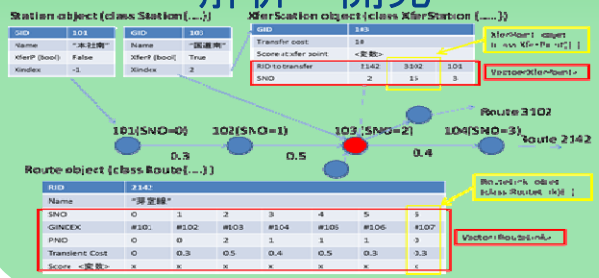
バス会社のノウハウ提供・コンサル

バス会社独自のノウハウ投入
利用者目線のシステムコンサル

システム設計・確認
コンサルテーション

北海道大学
HOKKAIDO UNIVERSITY

経路探索アルゴリズム
解析・開発



アプリケーション
アルゴリズム連携

UNiTRAND

設計・開発・クラウド
環境提供

クラウドシステム
低コスト運用
柔軟性・データ蓄積

1. 目的および目的地検索型乗換案内アプリの意義

① 不安解消・目的および目的地提案 → 利用者増

② 企画商品化による「路線の見える化」→ 域外利用者増

③ ITによる「路線の見える化」→ アナログより情報力大

④ スマホ若者・青年・実年層 → あと5年前後で高齢者層

⑤ 既存の駅名検索型鉄路系アプリ → 機能しない

⑥「顧客の見える化」へはIT化 → MaaS実現へのベース

2. ネットワーク化「繋がる」の意義

2. ネットワーク化の意義

(1) 二次交通充足地域の創造

十勝圏二次交通活性化推進協議会の野村会長（右）と北村副会長（左）

バスとタクシーが協議会

6月にも連携商品

会長に野村氏「流入人口増を」

十勝のバス会社とタクシー会社による「十勝圏二次交通活性化推進協議会」が28日、発足した。帯広市内の十勝バス本社で設立総会が開かれ、会長に十勝地区バス協会の野村文吾会長（十勝バス社長）を選任。バス、タクシーと十勝の観光素材を組み合わせた商品を開発し、6月ごろから販売していくことで一致した。

会員は管内バス会社7社、タクシー会社9社。航空や鉄道など十勝への1次交通の利便性が高まっているのに合わせ、中心地から目的地への2次交通の利便性向上を図る。設立総会には行政、経済、観光団体を

十勝圏二次交通活性化推進協議会 設立総会
2013年3月28日開催

毎日新聞 (昭和27年8月1日第3種郵便物認可) ©十勝毎日新聞社2013 大正8年創刊 (日刊)

十勝毎日新聞

2013年(平成25年) 7月30日 火曜日

発行所：十勝毎日新聞社 〒080-8688 帯広市東1条南8丁目 電話(代表)0155-22-2121

あすの帯広 最高気温 22℃ 最低気温 19℃

6～12時 12～18時

観光67コース設定

十勝 バス・タクシー連携

十勝のバス会社とタクシー会社でつくる「十勝圏二次交通活性化推進協議会」は30日午前、飛行機や鉄道などを使った十勝への訪問者が、目的地までの移動手段にバスとタクシーで乗り継げる67コースを発表した。帯広の中心地や宿泊地などと観光地を結び付ける公共交通が充実し、広大な十勝に点在する拠点間の移動がしやすくなる。バス会社とタクシー会社が連携した施行プランを設けるのは全国でも珍しいという。31日から販売を始める。

コースの中には観光施設入場料などが含まれているコースもある。いずれのプランもコースを利用しない場合よりも30～49%安い。バスとタクシーで乗り継ぐ観光プランは、芽室町内の「嵐山スカイパーク」、清水町内の「十勝千年の森」、帯広市内の「真鍋庭園・紫竹ガーデン」の3コース。

「十勝千年の森」の場合でみると、JR帯広駅バスターミナルを出発点にJR芽室駅前まではバス（十勝バス）で移動。芽室から千年の森まではタクシー（こばとハイヤー）で移動する。タクシーは1台7800円。バス料金を含めると1人で往復する場合の交通費は8400円となる。帯広市街地から千年の森までタ

森まで往復できることになる。

移動手段がバスのみのツアーパックは、十勝バスが路線バスを使ったこれまでの「日帰り路線バスパック」などの他、拓殖バスや毎日交通による新コースの紫竹ガーデン、然別湖畔など計31コースある。タクシーのみは33コースあり、昭和タクシー（清水町）は富良野市内と結び、途中で富良野市内の「麓郷の森」を経由するプランも打ち出した。

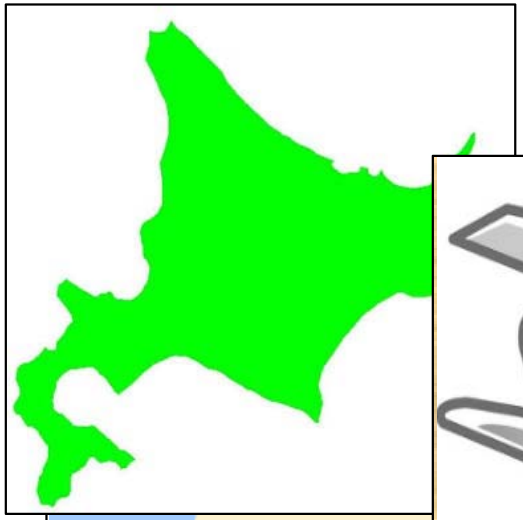
インターネットでも31日から情報発信する他、パンフレットを作製し、8月上

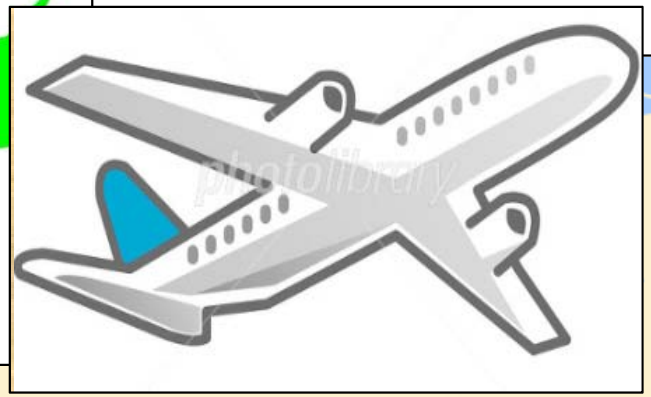
歯周病専門医による 歯周病相談 医療法人 わだ歯科 ☎34-2001 日本歯周病学会認定 歯周病専門医 院長 歯学博士 和田 大海

十勝毎日新聞 2013年7月30日掲載

2. ネットワーク化の意義
(2) JR北海道(交通新聞社)と競争から協創で連携

＜ 石勝線特急列車のみで導入 ＞





2. ネットワーク化の意義

(3) 北海道庁「北海道交通政策総合指針」策定

『北海道交通政策総合指針』 《概要版》

人とモノの流れが加速する！ 北海道の新たなステージを創る！ 安全・安心、便利で快適な交通ネットワークを道民みんなで実現する！

Ⅰ 策定の趣旨
- 本道交通を取り巻く環境変化に的確に対応しながら、あらゆる関係者が協働して交通に関する施策を一体となって推進し、本道のさらなる発展を支える交通ネットワークを実現するため策定。
- 計画期間：2018（平成30）～2030年度（北海道新幹線の札幌開業予定時期）

Ⅱ 交通ネットワークの現状と課題
人口減少と広域分散型社会 / 労働力不足と災害対応 / 加速する人とモノの動き / 陸・海・空のネットワーク強化 / 自動走行など技術革新 / 交通機関等（鉄道・バス・タクシー・航空・船舶・高規格幹線道路・物流）

Ⅲ 交通ネットワーク形成の基本的な考え方
2030年頃の北海道交通の「めざす姿」▶**世界をひきつけ、地域の未来を創る交通ネットワークの実現**
- 4つの基本方向：①交流人口の拡大 ②ストレスのない移動 ③安全・安心な地域社会 ④防災機能の強化
- 人流と物流が抱えている共通課題を踏まえ、人流・物流が一体となった効率的・効果的な施策を展開
- 今後3年間で集中的に進める取組を5つの重点戦略として設定し、本道のさらなる発展を加速

Ⅳ 道民の暮らしや経済活動を支える公共交通ネットワーク

1 交通ネットワーク形成圏

北海道型公共交通ネットワーク（3つの階層）
- 幹線交通：中核都市間等を結ぶ本道の骨格となるネットワーク
- 広域交通：中核都市や地域中心都市と周辺市町村などを結ぶネットワーク
- 生活圏交通：単一市町村・周辺エリアでの日常生活に密接した交通ネットワーク

3つの交通ネットワーク形成圏
- 道央・道南地域：新千歳空港や新函館北斗駅といった交通拠点が集積し、本道経済を力強く牽引
- 道北地域：豊かな自然環境や雄大な大地を活用し交流人口を呼び込み、経済活性化を促進
- 道東地域：圏域内の都市間の移動や観光資源を巡る広域周遊により、経済活性化を加速

2 鉄道網の展望（持続的な鉄道網の確立に向けた基本的な考え方や指針における具体の取組）
3 空港の展望（新千歳、稚内、釧路、函館、旭川、帯広、女満別、中標津、紋別、離島（利尻・礼文・奥尻）、丘珠）
4 港湾の展望（室蘭、苫小牧、函館、小樽、釧路、石狩湾新港 など）

（3）シームレス交通戦略

具体的な取組（2018～2020年度）

連携の促進・強化
- ◆地域の課題解決に向けた交通事業者、行政、住民など関係者に
- ◆関係者が一体となった最適な交通ネットワークの構築

方策1 地域の関係者による検討会議の設置

交通モード間の連携や乗換に便利な交通結節点の整備など、誰もが利用しやす
交通ネットワークの実現に向け、交通事業者や関係団体、自治体など関係者間の
なって取り組む体制を構築する。

北海道庁 2018年3月策定

公共交通連携で実証実験

道が推進 十勝で3年間

道は、各事業者の連携を深めて利便性の高い公共交通を目指す十勝でえしやすりやすい討し、住て快適な る。将来モデルに進める。道が今総合交通重点戦略ムレス交通戦略」に基づく取り組み。

は、バスやタクシーなどの事業者が連合体「運輸連合」を組織し、地域内の交通を一元的に運営、利便性の高取り組みを進めていることもあり、実験の適地に選ばれた。

実験期間は今年度から3年間。5月中には国、道、市町村、交通事業者、経済団体、有識者によるシームレス交通戦略推進会議（仮

乗り継ぎ利便性 議論

シームレス 戦略会議が初会合

あいさつする岸座長（中央）

利便性の高い公共交通を目指す「シームレス交通戦略推進会議」（座長・岸邦宏北大大学院工学研究院准教授）の第1回会合が22日、帯広市内のとかち館で開かれた。利便性の向上策として考えられる「利用者視点に立った乗り継ぎダイヤの設定」や「乗り換えアプリのさらなる情報提供」などについて、参加者が意見を交わした。

道が3月に策定した「北海道交通政策総合指針」に基づく取り組み。シームレス交通戦略は重点項目の一つで、鉄道やバス、タクシーなどの連携で、利便性が高くストレスのない移動の実現を目指す。十勝はバスとタクシー業者で構成する「十勝圏」次交通活性化推進協議会」があるなど業者間連携の素地があり、3年間で実証実験を行うモデル地域に選ばれている。

この日は国、道の関係者や管内の交通事業者など27人が出席。意見交換では参加者から「乗り換えアプリはまだ利用の広がりがなく、地域住民や観光客どもらにとっても利用しやすいものに修正したい」「バスに乗る不安感を持つ人に対してどう情報提供していくか、会議の中で話し合いたい」などの意見が出た。大きなテーマとして掲げられた「マイカーから公共交通へのシフト」「ストレスのない移動の実現」の達成に向け、今後、取り組む内容の詳細を決めていく。

次回会議は7月ごろに開催予定。具体的な実証実験は来年度の実施を予定している。（中島佑斗）

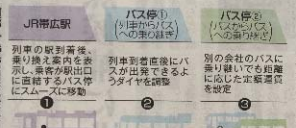
北海道新聞 2018年（平成30年）5月19日（土曜日） 16版 総合 2

JR→バス 接続スムーズ

十勝で道モデル事業

ダイヤ調整、停留所 駅直結に

道が十勝管内で実施するモデル事業のイメージ



道は本年度から、鉄道の到着時刻に合わせて路線バスの出発時刻を設定するなど、公共交通機関の乗り換えの際に切れ目のない運行体系を自指すモデル事業を十勝管内で始める。住民や観光客の利便性を向上させ、新たな利用客を掘り起こすことで事業者の収益を確保する狙い。道は、JR北海道とバス会社などでつくる検討会議を設置し、22日に帯広市で初会合を開く。（中村征太郎）

モデル事業は3年間。本年度は、来年度に実施する社会実験の内容について協議する。

ドイツの都市圏で行われている取り組みを参考に、駅の出口に直結したバス停を設置し、路線バスのダイヤを列車の到着時刻に合わせることなどを検討する。

また、路線バス同士の乗り換えについて、5分、10分など乗車距離などに応じ短縮運賃を定め、バス会社が連邦政策教授ら専門家で構成する。

十勝管内では、バス会社2社が昨年11月から、外国人客を対象に路線バスが乗り放題になる共通チケットの販売などを実施している。事業者間で連携する素地があり、帯広市を中心にバス路線が張り巡らされていることから、モデル事業を実施することにしたという。

道幹部は、JR北海道の路線見直し問題を踏まえ「路線の維持が現実的に難しくなっている区間もある以上、鉄道の幹線とバスの接続がスムーズになるなどの利便性向上の検討は不可欠だ」としている。

運賃は、十勝バス、北海道拓殖バス、十勝地区ハイヤー協会など14団体や、北大大学院の岸邦宏准教授ら専門家で構成する。

検討会議はJR北海道、十勝地区ハイヤー協会など14団体や、北大大学院の岸邦宏准教授ら専門家で構成する。

乗り継ぎなどに関する情報をスマートフォンのアプリで提供することや、駅や駅の出口に直結したバス停を設置するなどの乗り換え表示の充実を図ることも検討している。

また、路線バスの運賃は、JR北海道とバス会社などでつくる検討会議で協議する。

JR帯広駅でも一向の支払いにして運賃にならない仕組みも検討対象にする。

2. ネットワーク化の意義
(4) 乗換案内アプリ『もくいく＆バスロケ』で北海道全域が繋がる！

北海道全域が繋がる！
北海道の路線が見える化！

38

2. ネットワーク化「繋がる」の意義

① 単独バス事業者では目的地をカバーしきれない

② お客さまから見ると交通事業者の別は関係ない

③ 目的地に行けるかどうか、行けるのであれば活用する

④ 東京の鉄路の相互乗入れの事実・山手線内路線網と同等

⑤ JR北海道は地図に載り、情報のストックが蓄積してる

⑥ 公共交通の全てがネットワーク化で北海道全域が繋がる

『 観光立国インバウンド政策 』に潜む地方の特性による重要な課題

① 観光旅行者は、ほとんどが個人旅行(FIT)へ移行

② 大都市圏の若年層は、既に免許不保持傾向が顕著

③ インバウンド(中国)は、国際免許取得の制限に課題

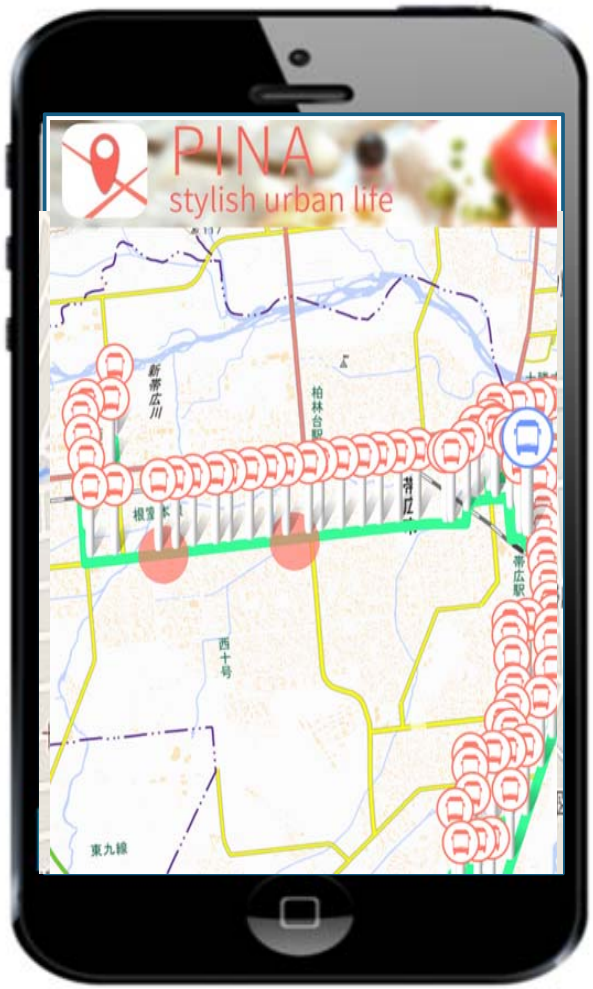
④ インバウンド(東南アジア)は、冬期間の運転に課題

⑤ 一次交通からの最終目的地までの路線が見えて無い

⑥ 二次交通の「路線の見える化」がますます重要で必要

3. 人口減少時代においては「お客さまを減らさない」ではなく「お客さまを増やす」が絶対条件

3. 路線維持のための増客
(1)『バスロケーション』システムは お客さまを減らさない仕組み



●バスロケーションシステムは

・既存のお客さまの利便性を
高めるシステム

・バスを使われていない
お客さまにとっては、
その必要性を感じられない

・人口減少の時代では
お客さまの利用を維持しても
そのままでは減少してしまう

3. 路線維持のための増客
(2)「目的」や「目的地」の提案により「路線の見える化」が実現！

企画商品化による
アナログ的「見える化」

この事より
明らか

つまり、目的や目的地から
検索が可能ならば

◉利用者が増加する
→ 地元市民
→ 観光のお客さま
→ ビジネスの出張者

結果、路線の維持が可能

3. 路線維持のための増客

(3) 目的地検索型『経路検索乗換案内』アプリは お客さまを増やす仕組み

したがって、

●IT的「見える化」の目的地検索型
経路検索乗換案内アプリは

・バスを使っていない方にとって
目的地まで行けるどうか等の
バス利用の不安を取り除く

・新たなお客さまの
バス利用の動機を高め
バスのお客さまを増やすアプリ

3. 路線維持のための増客
(4) バス利用のお客さまを「増やす」してから「減らさない」

目的地検索型 経路検索
乗換案内アプリ

＋

バスロケーション
アプリ

●路線の維持のためにお客さまを増やすには、
目的地検索型 経路検索乗換案内アプリの導入は必要不可欠！

3. 人口減少時代においては「お客さまを増やす」が絶対条件

① バスロケーションはお客さまを減らさない仕組み

② 人口減少では利用者維持(減らさない)では減ってしまう

③ 目的地検索型アプリで不安を解消しお客さまを増やす

④ 市民・観光客・出張者に路線バスを使って頂く

⑤ インバウンドのお客さまに路線バスを使って頂く

⑥ お客さまを増やして路線を維持する

4. データ共有と他アプリとの連携

4. データ共有と他アプリとの連携

(1) 乗換案内サービス『もくいく＆バスロケ』で北海道全域が繋がり、オープンデータ化

北海道全域が繋がる！
北海道の路線が見える化！

お客さまにとって、選択肢が多い方が、
使い勝手が良いアプリを選べる！

オープンデータフォーマット

もくいく　ジョルダン乗換案内　Yahoo!乗換案内　NAVITIME　駅探　駅すぱあと　バスナビ

5. MaaS for 北海道の実現に向けて

5. MaaS For 北海道の実現に向けて
(1) もくいくを世界と繋げる！

海外に繋がる！
海外から繋がる！

海外データを「もくいく」に反映
「もくいく」データを海外サービスに反映。

相互データ共有

5. MaaS For 北海道の実現に向けて
(2) 全体構想図

課　題

- ■鉄道網の縮小
- ■バス利用者減
- ■インバウンド増加
- ■交通の可視化
- ■冬期間独特の移動問題
- ■人口減少・高齢化

課題解決に向けての準備

- ■データの共有・オープン
- ■観光と公共交通を繋ぐ
- ■ICTの積極活用
- ■バス位置情報発信

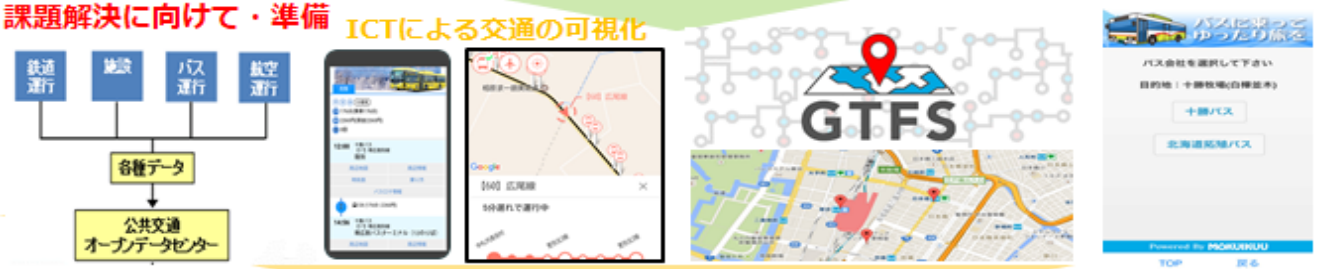
課題解決

- ■ビッグデータ解析
- ■先進IoT・ICTの活用
- ■人工知能の有効活用
- ■効率的多言語化
- ■MaaSの実現

北海道全体の交通可視化
交通の不安解消(旅前・旅中)
公共交通活性化
インバウンドへの情報発信

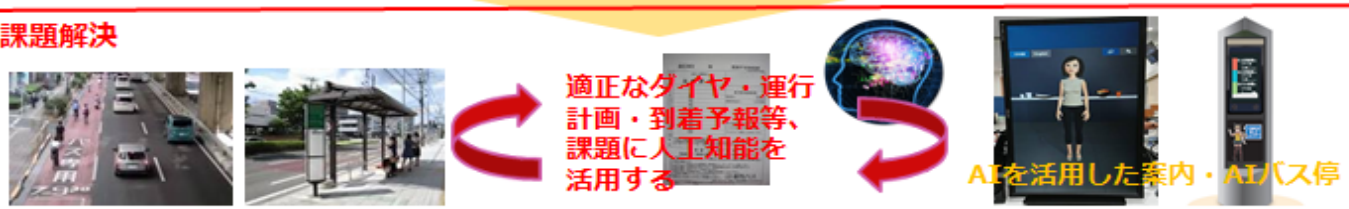
人口減少・高齢化・公共交通利用者減・観光客増加・高速道路延伸

課題解決に向けて・準備　**ICTによる交通の可視化**



ICTを利用した検索・バスロケサービス・オープンデータ化・観光+公共交通で活性化・データ蓄積

課題解決



データオープン化・交通可視化をベースとしたDX(デジタルトランスフォーメーション)推進
最新IoTからビッグデータ・マイニング・AIと効率的多言語化

インバウンドの北海道に対する交通不安の解消
「見える化」「DX化」によるサービスの向上・地元利用者増
グローバルMaaSの実現

世界各国とも情報共有・オープンデータ化。北海道の交通の不安解消・全交通(航空・電車・バス・TAXI等)連携

公共交通マーケティング研究会

スタートアップセミナー

ショートスピーチ

～ 公共交通マーケティングへの期待 ～

ご清聴、ありがとうございました

公共交通マーケティング研究会　アドバイザー　野村 文吾
十勝バス株式会社　代表取締役社長